



メキシコ館： 風の森

テーマ 歴史の伝承 未来に向かって、より良い生活を追い求める
面積 約4000平方メートル
設計チーム SLOT 建築設計
ロケーション 万博会場 Cブロック
プロフィール・ハイライト 風の森

A Preview of Mexico Pavilions



メキシコ館イメージ図





メキシコ館内部イメージ図

パビリオンの特色1

メキシコ館は「風」でできたファンタスティックなパビリオンである。メキシコでは、「風」という言葉は、先住民が使用するナワトル語の「蝶々」に由来する。風はメキシコでは未来の美しい生活への憧れを示しているのである。中国起源の風だが、中国とメキシコの古い文化の共通要素として、限らない躍進と発展をイメージし、また両国友好のしるしともされている。

パビリオンの特色2

メキシコ館で目立つのは色鮮やかな風と青々とした芝生からなる風の森であり、



A Preview of Mexico Pavilions



メキシコ館夜景イメージ図

メキシコが提唱する未来の都市生活の理念を示している。このサイトはほとんどオープンエリアであり、緑地の斜面設計により、巨大な公共スペースが作られ、エコ、環境保護、平和を意味する。

ハイライト1

メキシコ館は130あまりの高さがまちまちの「風」を設置する。赤、黄、紫、青、緑の五色があり、低いものは2・4メートル、高いものは13メートルにも達する。風はリサイクル可能なプラスチックで作られ、夜になると色鮮やかなランタンのように見える。美しいデザインであり、日差しや雨を遮る機能も備えている。また、来場者は風を購入したり、自ら作ったりして、広場で揚げることもできる。

ハイライト2

風を支えるポールも多くの機能を備えている。ポールの上には無数の穴が配置され、そこから涼しい蒸気が吹き出ている。また、インタラクティブなタッチパネルも設けられ、大自然の音が流れ、まるで真の大自然にいるように感じさせる。スクリーンでは多くの情報を提供するため、来場者にメキシコをいっそう理解してもらえらるだろう。

ハイライト3

メキシコ館は来場者にメキシコの過去、現在、未来を展示し、歴史、文化、夢を提示する。「過去」エリアでは、三つの大スクリーンがそれぞれメキシコの古い歴史、文化を紹介し、「現在」エリアでは、メキシコの主要都市の現状を説明する。「未来」エリアは緑いっぱいの斜面に作られた「風の森」であり、タッチパネルを利用して、メキシコの主な持続可能な発展プロジェクトを展示する。

ハイライト4

メキシコ館は敷地面積約400平方メートルのレストランを開設し、メキシコ料理を提供する。来場者はここでタコス、ブリート、ホットチリ、テキーラなどが楽しめる。館内には土産店もあり、来場者はここでメキシコの伝統手工芸品が購入できる。



緑地に凧

メキシコ館設計チームに聞く



同 世代のメキシコ人5人が、得意の色彩表現を用いて、メキシコパビリオンを鮮やかな「凧の森」に変身させた。メキシコが提唱した未来都市の生活理念を表現するのみならず、晴れ晴れとしたメキシコのうららかな日和を私たちの眼前に広げてくれる。

文◎王焱氷 李隽芝 写真◎李隽芝



1



2

る。これがメキシコ館の果たすべき役割であり、メキシコが提唱している未来都市の生活理念でもある。

凧、「スロット」の中にすばらしさを創出する

設計チームの名前である「スロット」は英語で「溝や細い隙間」の意味を持つ。このチームから見れば、建築設計の趣は「隙間にすばらしさを創出する」ことである。言い換えれば、「すべてのディテールを練り返し熟考する」「設計は細部から着手しなければならぬ」ということだ。

メキシコ館を設計したラミレスとアルバレスを含む5人全員は建築学科を卒業し、海外での設計経験を持つ。彼らは4年間仕事をともにした後、2009年にスロットを設立した。

ラミレスはアメリカ、スペイン、ポランドで仕事をした経験をもち、2008年スペインで行われたサラゴサ万博のメキシコ館の設計に携わった。一方のアルバレスはスイスの建築事務所勤め、2008年北京オリンピックのメインスタジアム「鳥の巣」の建築設計に携わった。「鳥の巣」設計に参加できたことが自分にとって非常に大切な経験だと彼は率直に語り、おかげで中国、アメリカなど世界各国から集まった優秀な建築士と知り合うことが

緑地、グリーンに回帰する自信を示す

初めてメキシコ館のイメージ図を見たとき、第一印象は「パビリオンはどこにある?」であった。私たちが期待した「すばらしい

建築」はなかった。見渡す限りの色彩豊かな凧と、青々とした芝生の斜面が「凧の森」をなしている。

メキシコ館の設計士エドガー・ラミレス(写真1)とイズラエル・アルバレス(写

Spacious Green Area
Interspersed with Kites

真2)に会った私たちは、彼らからこのユニークなパビリオンの由来を教えてもらおうとした。これはまさに彼らの思うつぼもあった。

「都市の拡張につれ、われわれは緑地と公共空間をたくさん失った。わが国においては、もっとも大きな都市問題である」とラミレスはいう。

この「スロット」と名づけられた設計チームは、他とは違う道を選んだ。彼らは外観がきれいな奇抜な建築を設計しようとしなかった。それは真の意味での「都市」ではないと考えたからである。逆に彼らは自然に回帰し、グリーンを取り戻し、最もナチュラルな都市状態を展示したかったのである。

「建築そのものにこだわらず、自然空間を都市の住民に帰したい。この室外の緑地スロープは人々の憩いの地となり、ここで万博のテーマを噛みしめることができ

A Preview of Macau Pavilion



できたと付け加えた。

「われわれは海外で積んだ経験をメキシコに持ち帰り、新しいものを創出したいと考えている」。メキシコ館のハイライトである「凧」もまさにこの表れである。メキシコの公式言語であるスペイン語の「凧」という言葉はナワトル語由来で、本来の意味は「蝶々」である。「凧」はまた中国に起源したことから、中国とメキシコの共通の文化的エレメントにもなり、それは限りない未来の発展と躍進を意味する。

記者 メキシコ館のテーマは「より良い生活を追い求める」というものですが、このテーマはどのように設計に取り入れられましたか。

建築士 グリーンは未来都市建設の基調といえる色であり、エコ、環境保護、平和を意味します。また凧は飛翔と自由の象徴であります。メキシコ館はこの二つの意味合いをもち、ディスプレイにも反映されています。また、メキシコの各時代における都市生活の展示も私たちのテーマを表現しています。

記者 メキシコ館の展示プロジェクトをご紹介いただけますか。

建築士 メキシコ館の展示は3セクションからなります。パビリオンのベースフロアでは、メキシコの歴史における人々の生活を紹介し、パビリオンの入口部分にはメキシ

コの現代生活を展示するホールが設置されています。また、メキシコ館の心臓部分ともいえるアウトドアスクエアの芝生広場では、未来のメキシコの都市生活を示したいのです。展示案は現在まだ改善中です。

記者 メキシコ館を見学するにはどのくらいの時間がかかりますか。

建築士 私たちは二通りの見学方法を設定しています。クイック・コースですと12分で終わりますが、ゆっくりご覧いただくなら30分ぐらいかかります。

記者 来場者にどんな印象を与えたいとお考えですか。

建築士 先史時代から未来のメキシコへの旅を体験することで、メキシコの歴史と夢をみんなに知ってもらいたいと思います。

記者 凧はメキシコでもよく知られていますか。メキシコ館の凧はどんな特徴を持ちますか。

建築士 凧はメキシコでも伝統的な玩具の一つです。人々が未来への期待、子どもや国家への美しい願いを代表するのです。われわれは緑地に135本も交差する色とりどりの大型凧を立てますが、最も高いのは13メートルで、一番低いものは2.4メートルあります。パビリオン内には凧を販売するカウンターを設置し、来場者は買うこともできますし、その場で制作することもできます。また、パビリオ

ンの屋上にある凧広場に持って行って揚げることもできます。私たちは伝統を現代生活に取り戻し、再び人々に注目され、好かれるようになってほしいと思います。また、「凧」は中国に起源があるものですから、両国の文化交流も象徴しています。

記者 ほかにメキシコ館に何か注目すべきものはありますか。

建築士 われわれは大型スクリーン・ディスプレイ・システム、ハイテック展示、インターラクティブ・プログラムを設ける予定にしています。メキシコ館の入口に地下の神秘的玄関に入る門があり、そこからメキシコレストランの香りが漂ってくるはずです。レストランでは伝統的なメキシコ料理を来場者に召し上がっていただけます。もちろん名高いメキシコの唐辛子、ハラペーニョも用意されています。同時に、館内の売店ではメキシコの伝統工芸品や書籍なども販売されます。

